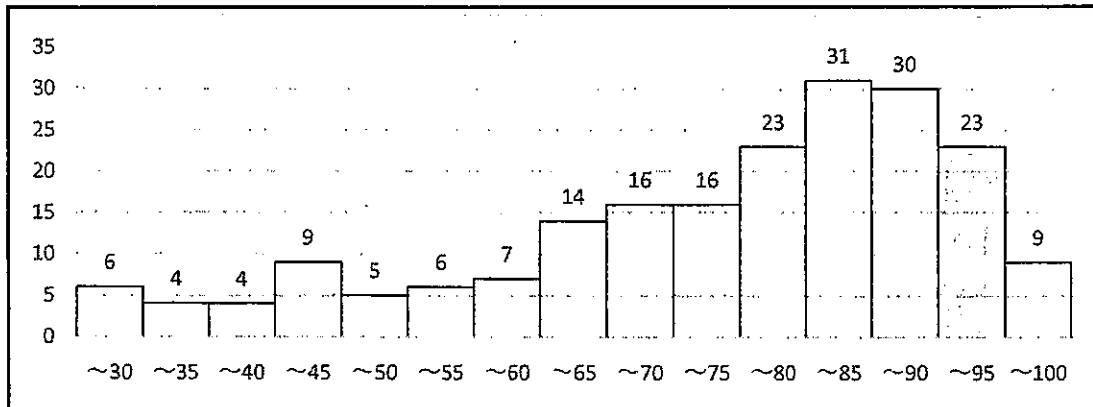


# 第1学年英語科後期中間調査得点度数分布

1 総得点の度数分布 単位：人 **作業** 自分の場所を色鉛筆等で塗ってみよう。



2 評価観点別得点の度数分布 単位：人 **作業** 自分の場所を色鉛筆等で塗ってみよう。

得点 観点	0	~5	~10	~15	~20	~25	~30	~35	~40
A 表現	4	17	16	23	52	54	37		
B 理解	0	0	1	10	44	80	69		
C 知識	2	2	5	3	8	15	24	58	86

3 評価項目別得点の度数分布 単位：人 **作業** 自分の場所を色鉛筆等で塗ってみよう。

項目	得点	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
基礎英語(B)		0	0	3	8	16	19	18	24	51	22	42					
内容理解(B)		0	0	0	5	9	11	19	33	34	50	42					
表現理解(B)		0	0	1	0	4	5	18	34	42	35						
理解表現(A)		10	11	7	13	21	24	31	26	11	22						
語彙(C) 11-15→		4	4	1	1	0	2	5	4	3	7	8					
			11	14	27	51											
文法理解(C) 11-25→		2	1	0	1	0	2	1	3	1	3	2					
			2	3	3	7	7	7	7	10	16	14	24	24	22	16	25
表現力(A) 11-20→		6	6	6	6	5	5	3	2	3	9	5					
			19	7	13	18	19	20	13	16	14	8					

## 問題分析

<例> 12-① Taro ( goes ) to cram school every day. 毎日塾に通います。

【解説】

この文を見ると、文頭の主語と思われる Taro の後ろに空所がある。主語の後ろには助動詞や動詞が入ることが多いが、この文には動詞が見あたらない。したがって、空所には動詞が入ることがわかる。そして、日本語の意味には「通う」とあるので、ここには go が入るとわかる。ただし、主語が三人称単数なので、答えは goes となる。

12-② Jiro ( studies ) English every day. 英語を毎日勉強します。

【解説】

この文を見る限り名詞ばかりで、「～する」を表す動詞がない。日本語訳を見ると、勉強をするであり、勉強ですではないので、be 動詞ではなく一般動詞が足りないことがわかる。よって( )の中には勉強するという一般動詞「study」が入る。しかし、このままではいけない。文を分けて

考えてみる。

Jiro ( ) English every day.

Jiroとは人の名前です。1人なので単数である。又、ジロ-という自分でも、あなたでもない存在なので、三人称である。

日本語訳には毎日勉強しますとある。つまりこの文は現在を表している。

まとめると、この文は三人称単数現在を表している。

三人称単数現在であるとき一般動詞の後ろには

sがつく

というルールがあるので、studyはstudysになるのだか

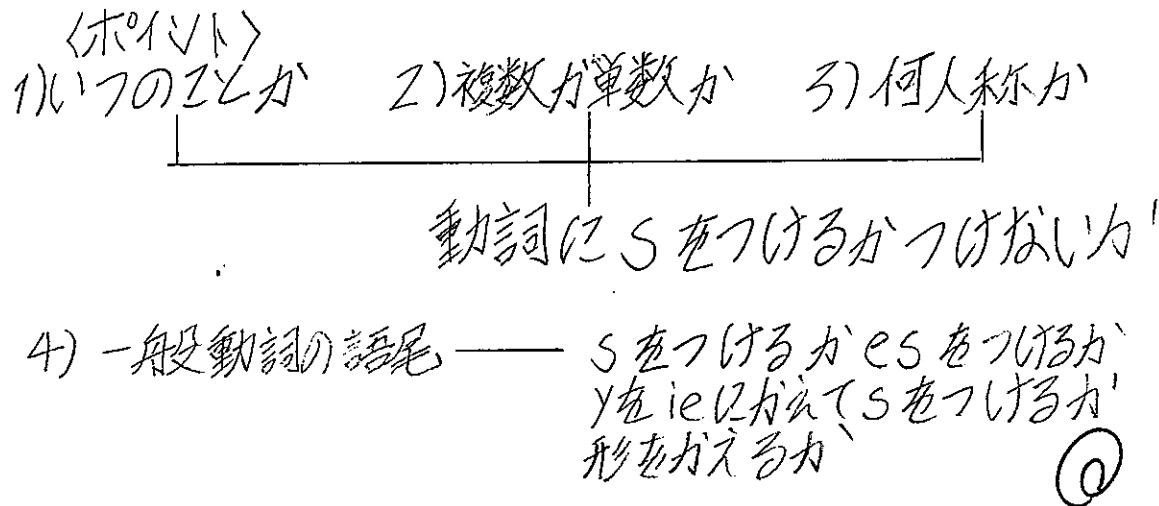
ここでも注意が必要で、最後が子音+yで終わっている時はyをieにかえてsをつける。  
なぜなら、

recycle  
リーサイクル  
Ostudys  
Ostudies

のようにyが子音にはさまれると、yは「アイ」と読む。  
つまり、studyも study'sだと、yが子音にはさまれるので、本来の発音「スタディーズ」ではなく、「スタイス」になってしまう。よって、この発音の「ie」にして、複数形のsをつける。  
母音+yならそのままなので-sで良い

よって答えは「studies」である。

三人称、単数になるので、sをつける。さらに子音+yといふことからieにかえなければいけないという2つのからくりがあった問題であった。



12-③ ( Does ) Kumi practice kendo every day? 毎日剣道を練習しますか。

【解説】

文を見ると、すでに「practice」という動詞がある。つまり、この文において動詞はもう一つ必要ではないことが分かる。この文は疑問文なので、最初空らんにはbe動詞・助動詞・疑問詞が入る可能性が高い。この2つを念入りに考える。

(1) be動詞

先ほど言ったようにこの文にはすでに動詞があるので、「もう一つ動詞が入らないことが分かる。よって、be動詞は入らない。又、

be動詞：主語の状態を表す

なので、「Kumiは今剣道を練習している状態」ではないので、be動詞は×

(2) 疑問詞

疑問詞の5W1Hに当てはめて考えると、この文において、  
What: 何を When: いつ Who: 誰か Where: どこで  
Why: なぜ How: どのように  
をたずねている日本語訳ではないので、これもちがう。

(3) 助動詞

助動詞は基本「YesかNo」で答えるときに使う。日本語訳を見ると、「練習するかしないか」というYesかNoなので適していることが分かる。また、助動詞は動詞がある文で使えるので、やはり、助動詞が適していることが分かる。

助動詞の何が入るかには肯定文から考える。②

Kumi practices kendo every day.  
 ( ) Kumi practice kendo every day?

肯定文の時ほどではないが疑問文になることで分かる。そのような特徴をもつ助動詞は「do, (does)」である。  
 さらに、肯定文にはる人称単数のsがついていたがなくなっている。つまり、疑問文にそのsがなくなり、doに  
 ついたのだと分かる。  
 doの語尾はoなので、sではなく、esになり、does  
 となる。よって答えは「does」

〈おまけ〉  
 なぜ「Do kumi practices kendo every day?」はX  
 なの?  
 このような考え方も良いと思うのだが、助動詞の本質を  
 知る必要がある。イメージであるが、

can	動詞の前につく
do(does)	動詞の後ろにかくれている

このように考えると、  
 He can practice soccer.  
 He practice<sup>s</sup> soccer.  
 does

このように practices の s はかかれていて does の s がと  
 分かる。  
 助動詞の疑問文では助動詞が前にくるので、

He practice soccer.  
 does  
 Does he practice soccer?

does が前に行くと同時に s は消えていき、s は前にいくこと  
 でなくなった。よって、practices の s は疑問文にすること  
 なくなる。  
 このように考えれば、Does he practice soccer? になる  
 ということ分かるだろう。◎

12-④ Ms. Wada teaches science, but she (doesn't) teach math.  
 数学は教えません。

【解説】  
 日本語訳を見ると、教えませんとあり、否定文になっていることが分かる。  
 否定の時は be 動詞 + not、助動詞 + not。の2つが考えられる。  
 しかし、12-③のように、すでに teach という動詞があるため、もう1つ  
 動詞は入らない。よって、be 動詞 + not ではなく、助動詞 + not だと

いうことは分かった。では助動詞には何が入るのか、おそろく  
 頭によぎるのは「do(does)」もしくは「can」であろう。  
 しかし、日本語訳をよく読めば分かる。  
 do と can の違い

do(does)	〜するなどの時に使う
can	〜できるなどの時に使う

<数学を教えない>

教えないという事は「～する」の類で、決して、「教えられない」という「できる、できない」の語はしていない。このことから、助動詞には「do (does)」を使うことが分かる。

後は do + not か does + not のどちらかだが、she という事は三人称単数である。ということは、does の does + not を使う。  
( )の中は「語」なので、does not を省略の「's」(アポストロフ)を使って、doesn'tにする。  
よって、答えは「doesn't」である。

<次にいふこと>

僕は解説している中で、she not teach math はなぜダメなのだろう。と考えた。僕なりに考えたこととしては、

明らかに確定していることは「三人称単数では動詞の後ろに'sがつく」ということ。つまり、肯定文は She teaches math. である。しかし、これは、12-③のように、

She teaches math,  
          does

と does の es がはみでている部分と考える。すると、She not teach math. の場合、does not ではないので does はその場から軌いていないことが分かる。

よって、She not teaches math,  
                                  does

もし、not ならば、teach はそのまま teaches でないといけない。しかし、文は she ( ) teach math,

と teach なので not は入らないのである。②

12-⑤ I (can't) draw pictures well. 上手に絵を描くことはできません。

【解説】

日本語訳を見ると、描くとはできないと否定文になっている。12-④でも言ったように、be 動詞 + not の場合は、まだ draw という動詞があるので、動詞が2つになってしまう。よって、助動詞 + not の形で否定文をつくる。

ここでもまた、「do (does)」と「can」が頭によぎる。そこで、もう一度それぞれの意味を確認すると、

do (does)	～するなどの時に使う
can	～できるなどの時に使う

今回の日本語訳は、描くことはできない

「できない」と書かれていることから「できる、できない」の語法は使っているのであって、「描いている」という「する、しない」の語法は使っていない。

よって、～できるの can を助動詞として使う。

よって、can + not で表す。

can + not は cannot、can't どちらでも良いのだが、少し使い分けを調べてみた。

<発音の問題>

can't	cannot
・こちらの場合には文に於いて、時々 + を発音せずして、「キャン」と発音することがある	・cannot なので、「キャンノット」とも読むが、米英では、これで、「キャンノッ」とも読む

<意味の問題>

can't	cannot
原則 「努力してはみたが〜する ことができないよな」 という意味がある	原則 「〜せざるを得ない」 という意味がある

意味で考えると、上手に描くとしてみたが、上手く描けない、というような形なので、can'tの方がより適していると思った。

12-④、⑤は、助動詞+notまでは分かって、助動詞がdoかdoesかcanかをまどらせるような問題でした。

<例> 13-① テーブルの下にいるネコはタマです。 [再]  
(the, the, table, is, under, cat) Tama.

The cat under the table is Tama.

[解説]

「テーブルの下に」は under the table、「ネコ」は the cat とする。前置詞句で名詞を修飾する場合は後置修飾であるので、「テーブルの下のネコ」は the cat under the table となる。この語順は前回のテストにも出てきたので、まちがえないように気をつける。この部分が「〜は」にあたる主語となるので、「〜です」にあたる is はその直後に来る。

13-② あなたは何の教科が好きですか。 [再] (like, you, do, subject, what) ?

What subject do you like?

[解説]

この問題では日本語と英語を組み合わせて、肯定文から教えるのと良い。疑問詞である「What」と助動詞である「do」があることから、最初は何なのかがということを念めて、一つ一つ段階をふんで考えていくと分かりやすい。

肯定文 私は英語が好きです

I like English.

Yes, No 疑問文：つまり助動詞を使う。I like という動詞があるため主語が人称であるので do を使う。  
あなたは英語が好きですか？

Do you like English?

下線部がわからない場合は、何が好きかなので、疑問詞「What」を使う。又、何の教科かなので、「What subject」でいい。

What subject do you like?

あなたは何の教科が好きですか？

このように考えると、「What subject do you like」が答えだと分かる。

しかし、What do you like subject? としてしまうかもしれない。そのような時は次のように考える。

Do you like English?

下線部がわからない場合は「何の教科」がわからないということ。つまり、そこを「What subject」に置きかえる。そして、この What subject を「語」だとして考える。

原則 疑問詞が疑問文の一番最初にくる

つまり、Whatが前にくるから、What subjectで1つの内容を  
 まりなので、これがど前にもってきて、

What subject do you like? となる。  
 Doが使われると、このように変化する事が多いので心  
 がけたい。

1つずつ段階をふいで考えられるかが問われていた。①

13-③ それは野球のバットのようです。 (baseball, a, it's, bat, like).

It's like a baseball bat.

【解説】

これはlikeの意味をしっかり理解していることが大切で、またその  
 品詞についての役割を考える。まず、it'sはit isの省略形。  
 つまり、isがあるため、be動詞がこの文においてある。よって、もう1つ  
 動詞はない。①

〈likeの意味〉

動詞のlike	好きや好むなどの意味がある
前置詞のlike	~のようだというような意味がある

動詞はisがある。よって、今回のlikeは前置詞である  
 と分かる。つまり、likeが~のようを表している。

前置詞の性質

名詞の前に置かれる

今回名詞は野球のバット「a baseball bat」なので、  
 その前にlikeを置く。

よって、「like a baseball bat」という文が完成する。  
 It is で主語動詞なので、それと続けて上の文を作る。

よって、It's like a baseball bat

が正解となる。

〈おまけ〉

the baseball batではなくa baseball batの理由  
 a, theは共に冠詞だから。

a	the
決山ある中の1つであり、 話の中で初めてでいる時 などに使う。	決山ある中で1つに決まっている 1回でいる時などに使う。

このように違いがある。今回は世界の中の野球バットのなか  
 からの1つなので、1つこれと決めてしょうかしている訳ではない。  
 よって、今回はaが使われていた。②

13-④ あの店で食べましょう。 (that, shop, at, eat, let's).

Let's eat at that shop.

【解説】

この問題においてはatの位置、又、Let'sの使い方が重要である。  
 Let's + (動詞)で「動詞しましょう」という意味になる。今回の  
 単語の中で動詞なのは「eat」(食べる)つまり、Let's eatと  
 いう形になる。①

Let's eat: eatしましょうなので、「食べましょう」である。  
 あとは、that, shop, atが残っている。

おそらく、「that at shop」「at that shop」のどちらか  
 が迷う。

しかし、次のように考えると良い。

1) thatの意味から考える。

thatには色々なはたらきがあるが、「あれ、あの」というよう  
 な意味を持っている。

つまり、あの店は「that shop」という語になる。となると、that at shop というように、that shopが「はなれる」とはない。よって、at that shopとなる。

2) atの意味から考える。

at	〜で、〜に、〜へなどという意味があり、地図上で点を打ち、それを表すようなイメージ
----	--

at (場所)で、(場所)で、となる。

もし、that at shop ならば、shopは色んなところがあり、ある点を表せていない。つまり、shopの前に点に当る語が必要。そこで、that(あの)やthe(その)などが着いて、店に決まるようになる。

よって、that at shopではなく、at that shopを使う。

あとは、これらをつなげて、

Let's eat at that shop. とする。

あの店で、とあえて限定されることで、atの位置を考えさせるような問題になっていた。◎

13-⑤ 国語と理科ではどちらが好きですか。

(Japanese, science, which, like, do, or, you)? ※コンマ(,)を1カ所

Which do you like, Japanese or science?

【解説】

この文においてはコンマ(,)を付ける位置が難しい。しかし、コンマを付けられる時がいつかを知らなければ大丈夫。コンマを付けない、つまりこの文はどちらが好きかは「Which do you like A or B」なので、Which do you like Japanese or science.

となる。◎

(コンマを付けられる時)

① 3語以上の言葉やフレーズ、句を並べる時

and, or などにおいて

2語の単語をつなぐ時は、

A and B	A or B
---------	--------

とする。

ex) baseball and soccer hot or ice

しかし、3語以上になると、

A, B, and C	A, B, or C
-------------	------------

コンマが必要になる。

ex) baseball, soccer, and tennis.

apple, banana, or orange.

今回 or が入っている。なので、この?が「使えると思うか」、もう一度見ると、「3語以上の場合」とある。今回は「国語と理科」、つまり、2語である。

2語のときは A or B なので、

Japanese or science

とコンマが使えない。

よって、ここではない。



②文として区切りをつける時

本文を見ながら解説する。

Which do you like Japanese or science?

訳すと、あなたはどちらが好きですか？  
よって、ここで一文ができ上がっている。なので、区切りと分え  
られる。

ならば他の文も、と思うかもしれないが、「Let's eat at」  
や、「I want to」というように基本は区切りがつく。  
そこで前置詞、接続詞などその次につなげる語が  
入っている。

しかし、今回はいきなり、Japaneseと入っている。  
つまり、さながら言葉がないため、そこで区切りをつけてお  
かなければいけない。  
よって、

Which do you like, Japanese or science?

日本語では「～と、～」のように、2語でも点を  
うかがうので、英語もそうなのではないかと考え、  
or、や、or というようにさせる引っかけ問題のようが  
ものであった。◎

<例> 14-① Ken plays soccer. [下線部を baseball に替えて「野球はやらない」に]  
Ken doesn't play baseball.

【解説】

「野球はやらない」という日本語の意味から、この文を否定文にすればいいというこ  
とがわかる。一般動詞の三人称単数現在の文の否定文を作るときは助動詞 doesn't を動  
詞の前に置く。そして、もはや動詞の語末にある-s はいらぬ。soccer を baseball に  
替えることを忘れないようにする。

14-② Mr. Hosoda teaches Japanese. [下線部が不明で答えの中心となる疑問文に]

What does Mr. Hosoda teach?

【解説】

この問題においては肯定文から少しづつ変えて教えるのが良い。肯定文から始ま  
っているので、Yes, No 疑問文、疑問詞を使った疑問文としていく。  
そして、下線部が不明というとは何をかとした疑問文にすれば良い  
のかを考える。◎

①何を中心とした疑問文をつくるのか

Mr. Hosoda teaches Japanese.

これを日本語にすると、

細田先生は国語を教えています。

もし、ここから下線部の Japanese = 国語を日本語訳で？に  
してみると、

細田先生は○○を教えています。

この訳を見て疑問に思うことは、誰もが、

細田先生は何を教えているの？

をと思う。

つまり、英語ではこの質問「細田先生は何を教えていますか？」  
をすれば良い。

しかし、いきなりこの質問をするのではなく、段階を一つづつ  
考える。

このように日本語でまずは考えてから英語にするというの、その  
考え方である。



② 段階をふんで考えていく。

肯定文

Mr. Hosoda teaches Japanese.

助動詞を使った疑問文: teaches にかかれている does を疑問文のルールで前に持ってくる。この時、does が移動してなくなるので teaches の es がなくなるのにも気を付ける。

Does Mr. Hosoda teach Japanese?

この時点では 細田先生は国語を教えますか? なので、ここから 細田先生は何を教えますか? にするには、不線部 Japanese が分からない時の文を作れば良い。

Japanese を何を、に当たるものにする。5W1Hの中で、何を指示するのは 'What'、なので、What を使う。もしくは、国語を教科というわくのみで考えるならば、何の教科 'What subject' を使う。しかし、この時には、What subject を一語と覚えて与うことを忘れない。

原則 疑問詞の疑問文では疑問詞を最初にもってくる

よって、そのようにし、What subject は一語と考えるので、これ? と前に持ってくる。よって、

What does Mr. Hosoda teach?

もしくは、

What subject does Mr. Hosoda teach?  
が答えとなる。

<おまけ>

Mr. Hosoda teaches Japanese.

の場合どうするのか。  
この時も日本語で考える。

細田先生は国語を教えている。

ここから teaches Japanese 国語を教えるを抜くと、

細田先生は〇〇している。

となり、細田先生は何をしているの? となる。  
細田先生は何をしていますか? を使えば良い!

Does Mr. Hosoda teach Japanese?

何を → What を使って前に出すか! このままを! と、

What does Mr. Hosoda

と出てしまう。上を見ると、最後が動詞で終わっている。この文で、動詞は「している = do」なので、

What does Mr. Hosoda do?

できることが出来る。 @

14-③ I play tennis at school. [下線部が不明で答えの中心となる疑問文に]

When do you play tennis?

【解説】

14-②と同じような考え方が必要になっている。日本語からきくべきことをかきと判断し、それを元にして考えていくことが大切。しかし、今回の場合は「at school」という場所が一目で分かる問題であったので、14-②に比べると簡単だったかもしれない。

①日本語から考える

I play tennis at school.

これを日本語にすると、

私は学校でテニスを行います。

この訳から下線部 at school : 学校で をなくすと、

私は〇〇でテニスを行います。

この文を見て、疑問に思うことは「どこでテニスをするの?」ということ。つまり、

あなたはどこでテニスを行いますか?

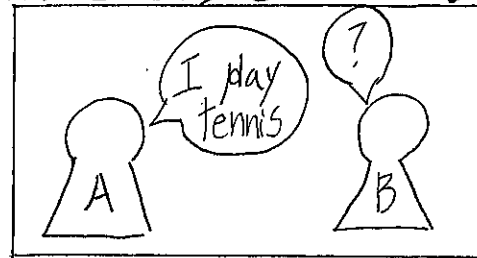
という文を英語できけば良い。

しかし、直接英語にするのではなく、段階的に考えてみる。

肯定文 I play tennis at school.

助動詞を使った疑問文: do が play の後ろにかかれている。  
疑問文では助動詞を前に出すので、do が前に行く。

又、肯定文でIといったとは



自問自答はしないので、Bさんからの質問となる。BさんにとってはAさんは「あなた」になる。よって、Do I ~ではなく、Do you ~となる。

Do you play tennis at school?

この時点では「あなたは学校でテニスを行いますか?」から「あなたはどこでテニスを行いますか?」にする。よって、下線部が分からない時の文を作れば良い。

at school を「どこで」に当たるものにする。5W1Hの中でどこを表すのは「Where」なので、Where を使う。

原則 疑問詞の疑問文では疑問詞を最初におく

よって、このようにし、Where を前にもってきて、

Where do you play tennis?

が答えとなる。

下線部が不明の時に、5W1Hの中で何をを使うのかをまずはよく考える。特に、14-②では最も抽象的な何を、を使うとかが分らや何をを使うか困るというひっかけがあった。

<おまけ>  
肯定文と疑問文では主語が変わる時、

I play ~ や I study ~ などの時は自問自答はしないので、疑問文では you が主語となる。

肯定文	疑問文
I play ~	Do you ~
He plays ~	Does he ~
They play ~	Do they ~

I 以外はそのままかのは気を付ける。①

14-④ This is Ken's pen. [下線部が不明で答えの中心となる疑問文に]

Whose pen is this?

【解説】  
これは1つ1つ考えて、答えを導き出しても良いが、2通りの答えがあり、どちらかが○でどちらが△である。そのことは、上の文から考えられて、大切なこととなる。①

This is Ken's pen.  
これを日本語にすると、  
これはケンのペンです。  
となる。

そこから、下線部 Ken's = ケンのおぬくと、

これは○○のペンです。

となる。ここで生まれる疑問は「これは誰のペン?」ということ。つまり、

これは誰のペンですか?

ということ英語にすれば良い。

This is Ken's pen. を疑問文にする。

be動詞の疑問文なので、be動詞を前にもってきて、

Is this Ken's pen? となる。

これは、「これはケンのペンですか?」なので、そこから「これは誰のペンですか?」にするために、下線部が分からない時の文をつくる。

Ken's を誰の = Whose にするのだが、ここで気を付ける。今まで通りにやると、

Whose is this pen? となる。

しかし、これでは×である。その理由は...

①意味を考えると、

肯定文は「これはケンのペンです」であり、「このペンはケンの物ですではない。よって、

これは誰のペンですか?	これはケンのペンです。
このペンは誰のものでしょうか?	このペンはケンの物です。

のようになる。

このペンが this pen. よって、これは誰のペンですか、  
の場合にはこのペンではないので、this pen ではない。  
よって Whose is this pen? ではなく、Whose pen is this?  
よ、これは誰のペンですかの形のものが正解

② 誰のペン

このペンではなく、誰のペン、という形である。よって、誰の  
ペンという表現 Whose pen, が含まれている

Whose pen is this?

が正解となる。

Whose is this pen?

- This pen is Ken's.

Whose pen is this?

- This is Ken's pen?

問題の方は主語が This. それに対して、Whose is  
this pen? がよ、This pen. が主語になってしまう。  
つまり、This が主語になる Whose pen is this? が  
正解となる。

色々な考え方があがるか、どれかの考えで、Whose pen is this?  
が答えだと導き出せるかであった。

Checked

14-⑤ The yellow bag is mine. [下線部が不明で答えの中心となる疑問文に]  
※選択肢が複数ある中で尋ねる文に

Which bag is yours?

【解説】

この問題でも一つずつ変えていて考える。しかし、この問題においても、2通り程  
答えが生まれるのだが、これもどちらが生活である。  
それも合わせて考える。○

The yellow bag is mine.

これを日本語にすると、「その黄色のバックが私のものです。ここから  
下線部 The yellow = 黄色の色ぬくと、

○○のバックが私のものです。

となる。ここから「どのバックがあなたのもの?」となる。つまり、

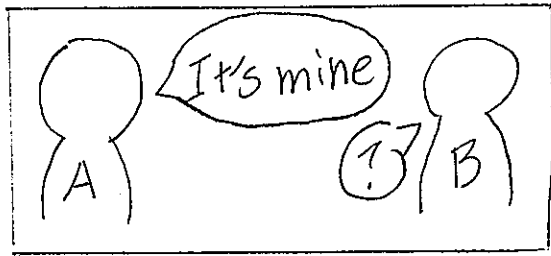
どのバックがあなたのものですか?

を英語にすれば良い。

まず、Yes, No 疑問文にする。be動詞があるので、それを前に  
持ってきて、

Is the yellow bag yours?

となる。ここであらうつけるのは「私のもの」なので、自問自答はしな  
い。よって、「あなたのもの、大きく必要がある。  
Aさんが言ったことをBさんがきくという考え。



the yellow をどこからなくすと考えると「どれが?」となる。  
 複数の1つを表せる疑問詞は「Which」

the yellow を Which に変え、疑問詞を前にもってくる。

Which is bag yours? となるが、「これでは×」

「あなたのバッグはどれ?」  
 なので、bag yours ではなく、your bag にし、

Which is your bag?

とする。しかし、これでもまだ△である。

理由1 ~のものという言い方

~のと~のものという2つの似た言い方がある。

~の	~のもの
my	mine
your	yours

このような形である。問題文は「mine」つまり「~のもの」という表現を使っている。

原則

質問と答えでは同じ表現が使われる

よって、答えで「~のもの」という表現が使われているというときは、疑問文でも「~のもの」を使う。

よって、「~の」で始まっている文ではいけない。

理由2

① Which is your bag? : どれがあなたのバッグですか?

② Which bag is yours? : どのバッグがあなたのものですか?

①では「どれが」となっている。しかし、問題文のものは、「黄色のバッグ」とある。つまり、「〇〇のバッグ」とバッグまでが主語に入るので、①のような「どれが」ではやや足りない。よって、「〇〇のバッグ」まで入るように「どのバッグか」まで入れた②の形が△となる。

今言ったように主語は「〇〇のバッグ」= 〇〇 bag まで入るので、

Which bag

又、~のものという表現の疑問文なので、is yours か is yours?

となる。これらをつけて、疑問詞が前なので、

Which bag is yours?

が答えとなる。

ただただ、いつものような文の変化では×ということか、伝わっている問題であった。②

17-① マクレイ先生 (Mr. MacRae) は英語とフランス語 (French) を話します。

Mr. MacRae speaks English and French.

【解説】

日本語の「～します」という表現から、現在の習慣を表す文を書くと考えられる。「話す」という動詞は speak, tell, talk などがあるが、「言語を話す」という場合は speak を用いる。ただし、主語が Mr. MacRae 一人なので、三人称単数現在の文と考えて動詞は speaks とする。そして対象の言語を「AとB」という場合は "A and B" と表す。

17-② あなたのお父さんはカレー (curry) を上手に料理することができますか。

Can your father cook curry well?

【解説】

今までは英語を変形させてきた。しかし、今回は日本語を変形させてから考えよう。

「あなたのお父さんはカレーを上手に料理することができますか。」という疑問文を肯定文にする。○

肯定文

あなたのお父さんは上手にカレーを料理することができます

できるということにするなどの do ではなく Can を使う。  
また、料理するには make と cook があるが、違いは

Cook	make
料理する、作る、炊くなどの意味があるが、加熱した料理のときに使う。	作るという意味がある。火を使わずに作った物 のときに使う。

I like making = 僕は作るのが好きなので X

カレーは火を使うので、「COOK」を使う。  
よって、

Your father can cook curry well.

となる。  
上手には well

can がつくので、「cook」はつかない!

これを Yes、No 疑問文にする。

疑問文にする時は助動詞 Can を前に持ってくる。よって、

Can your father cook curry well?

となる。

well をどこにおくか迷うかもしれないが、

肯定文から考えると良い!

日本語を変えて考えられるかが試されていた。◎

17-③ 太郎 (Taro) は毎朝、川の近くで彼の犬を散歩させます。

Taro walks his dog near the river every morning.

【解説】

この問題で考えるべきことは、主語が何か、動詞の後のs、場所と時間の語順。  
いろいろ考えていく。主語は太郎と彼の犬とどちらかだとは予想できる。○

1) 主語は何か

言いたいことをまとめると、  
太郎は散歩させる。

ということ。つまり、主語は太郎 (Taro) となる。

2) 動詞の後ろのs

太郎が何をするかというと、散歩させる。

散歩させるは walk

毎朝と「毎」がついている。よって習慣を表す。よって現在。

Taro は一人なので、単数。

Taro は私でもあなたでもないのだから、3人称。

これらを組み合おせると、3人称単数現在なので、

動詞の後ろにsがつく

よって walks.

3) 場所と時間の語順

結論からいうと

場所 - 時間

です。

おんでは難しいから、僕は次のように考えた。

ex) I play basketball.

とある時に、バスケットボールをしたのは、基本「バスケットボールコート」である。つまり、時間よりも「分かってきている」こと。

ex) I go. ...

とある時には、いつ行くよりもどこに行くの、の方が go に関係がある。

つまり、場所は時間よりも「分かっていて」より重要だと、であることが多い。

よって、場所 - 時間  
で表す。

これをまとめると、

主語	動詞	何を?	どこで?
Taro	walks	his dog	near the river
いつ?			
			every morning,

ここでもどこの方が散歩に関係している。

これが答えとなる。



<おまけ>

主語が Taro ではなく、彼の犬であったら...

日本語だけだから、

彼の犬は太郎によって散歩させられた

となる。

このような受け身の文を 受動態 というらしい。

今僕たちが習っているのは 能動態 といふ。

<能動態と受動態の違い>

能動態	主語が行動を起こす
受動態	主語が行動を起こされる

例文から考えてみると、

能動態 The woman throws the baseball.

その女性は野球ボールを投げる

主語は The woman 「その女性」その女性が投げる  
なので、主語が行動を起こしている ことが分かる。

受動態 The baseball is thrown by the woman.

野球ボールはその女性によって投げられる

この文の主語 The baseball 「野球ボール」は行動を  
起こしていない。

逆に女性によって「投げられた」のだから  
主語は行動を起こされている

このような違いがあることが分かった。

細かいところまでは分からないが、主語と一般動詞の文に  
おいて、(主語+be動詞は状態なので)

主語が必ずしも行動を起こすわけではない

ことが分かった。①

# ① 誤答分析

今回は本当に理解できず、間違えた 6-① を分析する。

6-①  
誤答: ア 正答: ウ

<分析>

この問題で僕はアとウで迷った。僕は「canで聞かれていないので違うことが分かった。」

アとウで迷った理由は、どちらもbe動詞で答えていたから。そして、僕がアにしてしまったのは質問文の「主語に注目してしまっただから、だ」と思っている。

Are your friends good at tennis?

主語は下線部の your friends だ。僕はこれを「friend の単数」とかじがいて、「your friend = あなたの友達」と、「三人称単数」だと思い、「is」が使われている「ア」にしてしまった。

しかし、僕は次の2つに注目していれば良かった。

## ① be動詞の「are」

Are your friends ...

be動詞の are が使われているよって、主語は「二人称・複数」となる。

しかし、僕は「あなたの友達」と考えた。  
あなたの友達、は「三人称・単数」なので、何かおかしい。  
と気づきかけた。

又、主語が「複数・二人称もそうだが」

疑問文と肯定文では同じ be 動詞で答える

ということが分かっているので、「アはない」と思えるはず。  
しかし、ここで重要なのは、

Are you ~? の場合は、Yes/No, I am/am not となるということ。

だが、たまたま今回は答えの中に「I am」が含まれているものがなかったのだから「この事もバガけておく」と良い。

①の考えでは、Are できかれている = are で答えるなので、are が使われているウとなる。

## ② friends の発音

friend と friends

の発音のちがいが分かれば良い。  
おもに下線部の発音に気を付ける。

friend

この単数の形での発音は「フレンドゥ」

f r i e n d

フ レ ヲ ドゥ

つまり、最後の下線部 d は d の音「ドゥ」であることが分かる。

friends

この複数形での発音が要注意。  
ふつうに読かす。

frien d s  
フレン ドゥズ

フレンドゥズとなる。読むと分かるが、dとs ドゥズは  
やや言いにくい。そこで、一般的にはd (ドゥ)は読まず、  
にらズを強調する。よって、

frien ~~d~~ s  
フレン ~~ド~~ズ

一般的には「フレンズ」と読む。  
まとめると、

単数 friend	複数 friends
フレンドゥと読み、 最後のdは読む。 よって最後の音は <u>ドゥ</u>	フレンズと読み、 dは読まずにら ズを強調する。 よって最後の音は <u>ズ</u>

今回の音声では「d=ドゥ」はきこえず、「s=ズ」が  
強調されている。  
よって、複数形であることが分かる。

複数=be動詞は「are」よって答えは「are」である。

①、②どちらで導いても良いが、発音はきこえ方にもよる  
ので、①が良いかなと思っている。

your friendsで複数形=theyと主語に注目しても  
良いが、your friendで性別は分からないからかという考  
え方は△である。

もう1つ、your friend ~~is~~ are。Is ~と  
始まるのは不可。

## ① 普段の授業

「なぜを追求する大切さ」  
英語はルールが多い教材だと思ふ。だからそのルールを覚えて、書けたり、言えたりすると、満足する人が多いと思ひますが、そんな英語にはルールを知り、「なぜ？」と追求できないことがあるのだと、先生の授業で学びました。

例えば、「なぜ」音ははそのままをつけてはいけないのか、などです。最初は「そんなこと分かるの？」と思ひていましたが、おもしろい程、今まで学んだことを活用して導き出すことができました。

また、ペア練習が後期では多かったのですが、「相手か」分からなくて、質問をしていくことが良くありました。その時も、ただ結果だけを言うのではなく、「フゥフゥフゥだからフゥフゥ」のように「フゥ」段階を言んで説明することで、より英語の原点から教えられた気がしました。

今回のテストノートの中でも答えはこうだけど、こうだったかどうなるのか、なぜこれではダメなのかということを追求するようにしました。このように身証に「なぜ？」と思へるようになっていくことは良いと思ひました。

これからも、なぜを追求し、より詳しく正確に説明できるようにがんばります！

## ② 普段の家庭学習

家で僕が心にかけている復習、僕が家で心にかけている復習方法は「説明する」といふことです。その日の授業で話題になったことを自分で時にはお母さんやお父さんに説明するようにしています。

僕は、説明できる＝力が身につけているだと思ひています。前回までは一切復習していませんでした。しかし、今回はこのような形で少しでも復習をすることで、本当に分からなかったり、大きく間違えた問題が前回より半減しました。今回は学校であつかったことなので、基本的には文法の復習が中心でした。

前回は「分かったつもりでは×、」といふことを書いたので、お、今回僕が自分のテストを見て感じたことは、「自分の考えたこととルール」になつてしまっていることです。

どういうことかといふと、リスニングの問題で Are できかたっているから are で答えるというルールではなく、「あなたの友達」といふより、自分の思考で考へてしまっているところや、it doesn't とは言おがいんじゃないと勝手に自分の考えを優先してしまい、英語のルールを無視してしまうことがありました。

僕は今回起つたことから、授業であつかった「ルール」をより復習しようと思ひました。

そうすることで、英語のルールと自分の考えとし、まずはルールが考へるということもバカがけたいです。

基礎英語はルールのしょうがいが多いので、そこにも今までより注目して行くようにしたいです。

③ 今回のテスト勉強

単語を中バ的に  
前回もつけない単語のフグリミスをしたので、今回はなくそうと思いい単語を中バとしたテスト勉強をしました。

すると、今回の単語ミスは減りました。単語はひたすら間違ったところをやるのが大切だと学びました。僕は、必修テキストの単語で間違えていたところをまとめてもう一度やるということは前回に引きつぎやりました。+で今回は単語100問テストをやったので、そこで×だったところも見直しました。

しかし、一つだけ Whose のフグリを間違えてしまいました。100問でたときに Whose はあって正解はしたので、力としても迷った問題でした。ですが、示しをつけていなかったのが、それが原因のはずです。

そこで次からは今まで「×」がついた問題しかなかった気がついていませんでしたか、これを「△」までハードルを上げて気をつけるようにしようと思いました。

始めるタイミングは 週間前から一定のタイミングでやることで充れないようにしていました。

今回から新しいピロピロ問題ができましたが、それは基礎英語のテキストに直接下そう城とろに線を引き対策しました。

日々の授業で学んだルールや日々の基礎英語から対策が始まっているので、力を入れたが人ばりたいたいです。

④ 今後の課題や目標

「テストはあくまで授業のしらん」

僕は、やはり、日々の授業が大切だということは分かりました。授業では一つ一つ考えることを重要にしています。一見テストとは違いうみえますが、今回解説をしてみると一つ一つ考えていることが多いと思いました。つまり、日々の授業をテストという新しい問題でできるかがためられていると思えました。

一つ一つ考えることができていけば、困ることはないはず。例えば、僕が今回間違えたりスニグの問題は授業でやった複数形単数形、三人称単数などを活用します。このことから分かったことは、「くみ合おせて考えられるか」ということです。

一つ一つの知識ではなく、一つ一つを結びつけて初めて答えに結びつくということが分かりました。

今日でいえば、be動詞の使い方を完璧に理解していきなれたからその間違えです。

なので、次からは一つ一つの授業で学んだことを完璧にし、100%でいどもとて、実力をはきする授業のいっかん(集大成)と考えるも良いと思えました。

そこで次からは一つ一つを完璧に理解し、できたらその日の授業の大切なポイントをもとめた「まとめノート」を作りたいと思えました。

